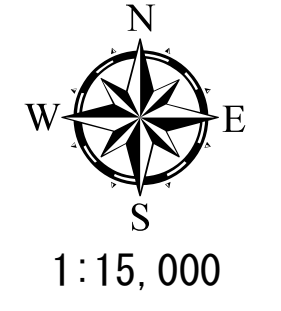
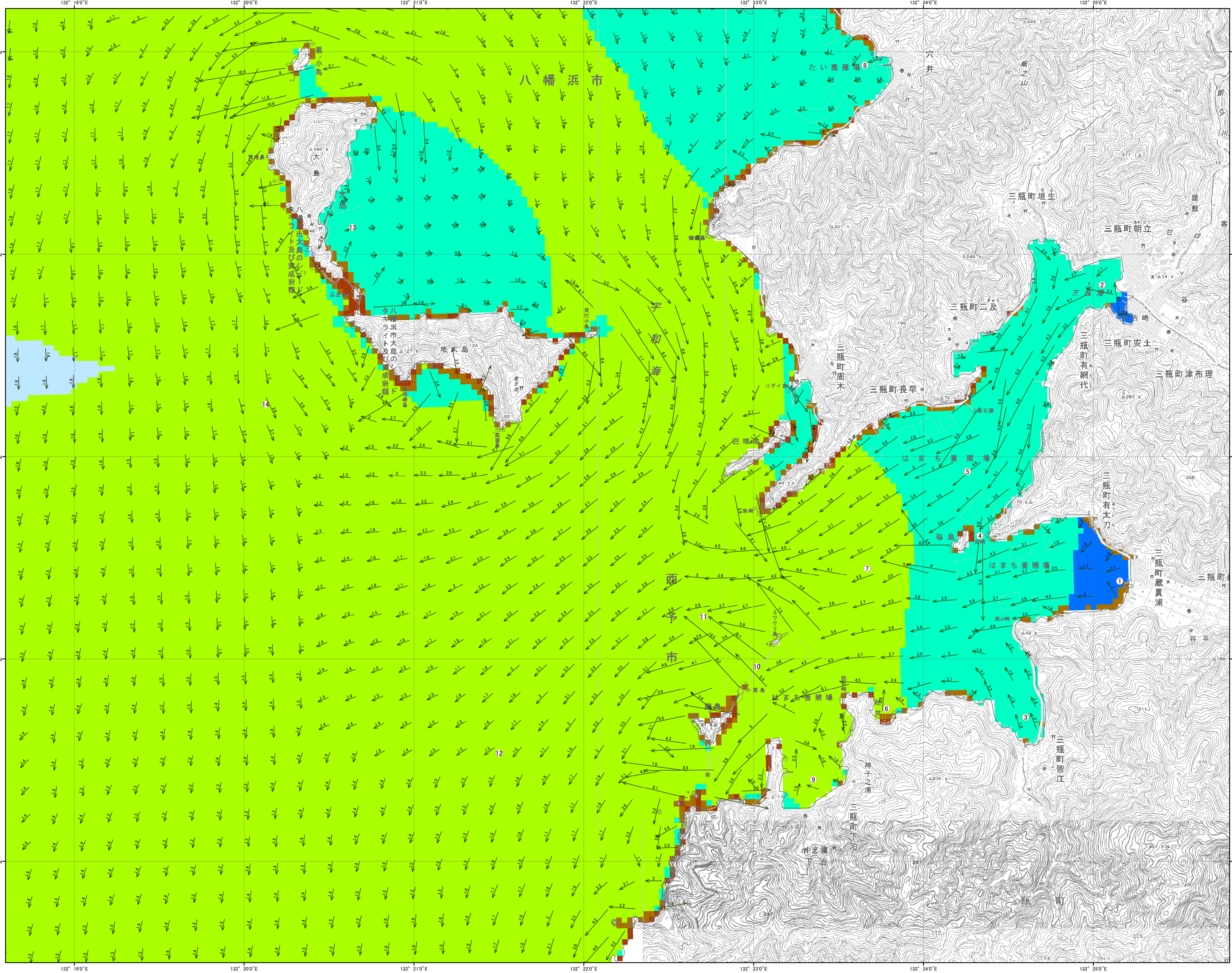


三瓶港 津波防災情報図 (引潮図)

計算条件：最低水面（零位）
 隆起量：平均 -95cm (-105cm ~ -88cm)
 Zo：1.30m
 備考：本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のものとは異なることがある。



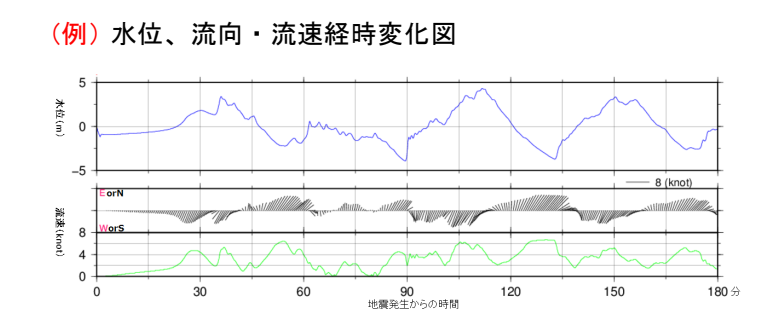
座標系：メルカトル図法
 測地系：世界測地系 (WGS84)



凡例

- 最大水位低下
- 5~最大5.7m
 - 3~5m
 - 2~3m
 - 0.5~2m
 - 0.5未満
 - 干出域
 - 露出域

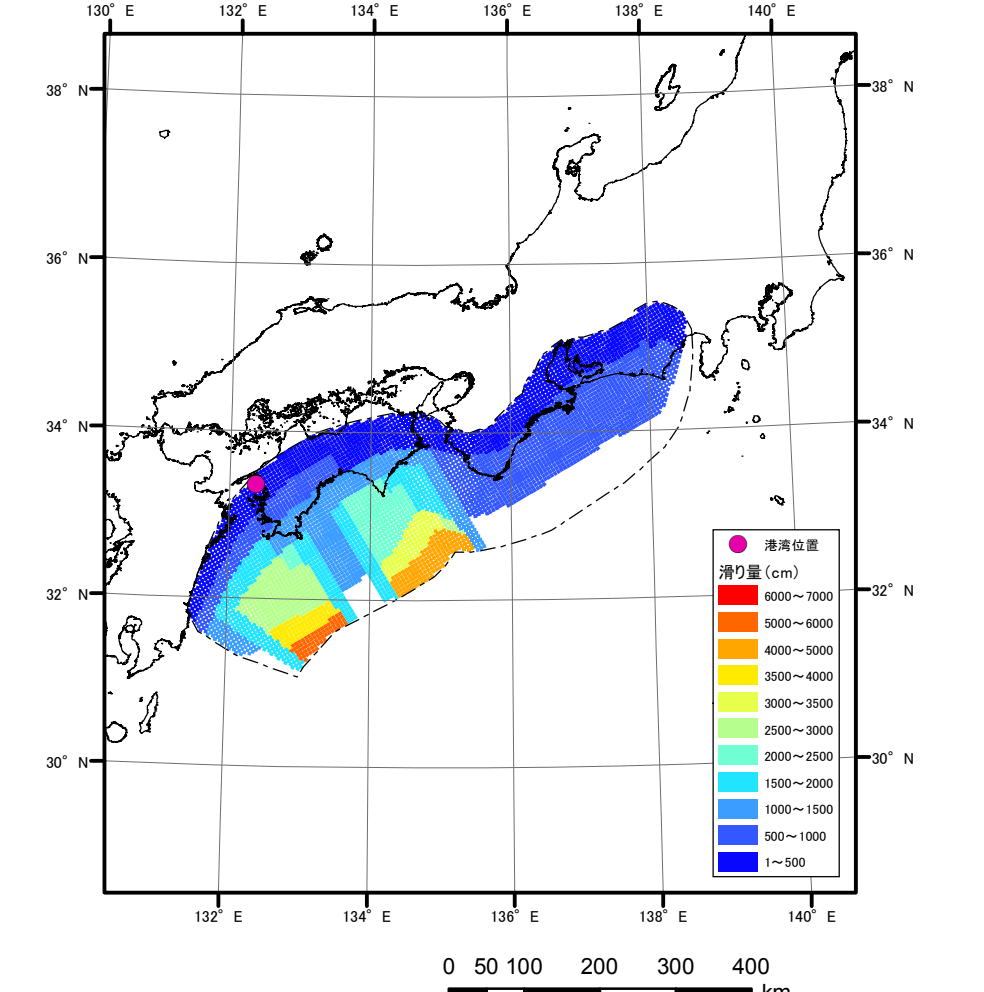
○ 経時変化図出力点
 (図上の位置における津波の挙動を別図の経時変化図で示す。)



- 引潮時最大流 (knot)
- 3 knot
 - 2 knot
 - 1 knot

○ 防護施設は、震度6弱以上の地域であるため、地震発生から3分後に破壊すると計算している。

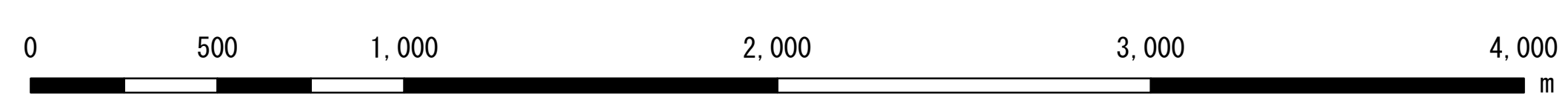
断層モデル



ケース⑪「室戸岬沖と日向灘に『大すべり域+超大すべり域』」

断層面積 S (km ²)	140,000
地震モーメント Mo (N·m)	6.6 X 10 ²³
平均すべり量 D (m)	11.2
モーメントマグニチュード Mw	9.1

○ 本図の作成にあたっては、「津波解析支援GISシステム (ArcGIS 10 対応)」を使用した。
 ○ 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。
 ・海上保安庁が保有する水深データ
 ・基礎地図情報5mメッシュ (標高)・10mメッシュ (標高)、及び数値地図25000 (地図画像) (国土地理院発行 国土地理院長承認 承認番号 平24情使、第911号 平成25年3月29日)



本断層モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会 (第二次報告) (平成24年8月29日発表)」により公表されたものである。
 使用した断層モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、本図の区域において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。